

「普通の人」でも 議員になれる!?

当選の可能性を高める「3つのバン」

選挙戦に勝ち抜くために必要なのは「ジバン・カンバン・カバン」がポイントといわれます。

立候補できる人は
限られているのが現実

普通のサラリーマンなどでは、なかなか「3つのバン」をそろえることは難しく、一族に政治家のいる世襲議員や有名人、会社経営者などが多くなる

地盤

すでに後援会があり、後援会員の応援が期待できるなど、選挙区の有権者の支持が厚いか

看板

候補者の名前がどれだけ知られているか

かばん

中身となる「選挙資金」がどれだけあるか

親が
政治家です

タレント活動
で有名です

有名人

社長ですから
お金はあります

世襲議員

会社経営者

当てはまらなければ
政党の公募を利用する手もある

党外の優秀な人材を集めるために、立候補したい人を募集。候補者の多様化をはかる動きもある

政党の審査

候補者に選ばれれば支援を受けられる

当選が確約されたわけではない

「選ぶ側」が変わらないと
「普通の人」の転身は困難

日本では、政治家を志すとなると、一大決心が必要です。サラリーマンが立候補しようとしたら、普通は会社をやめなければなりません。「選挙に出た変わった人」という見方をされ、落選したからといって元の職場にも戻りにくいのが

世襲議員ばかりでなく「政治家になりたい!」という熱い志がある人を国会に送り込むには、有権者の意識改革も必要です。

選挙活動のルール

選挙運動のやり方や費用については、公職選挙法でルールを定めています。これに違反し、選挙運動の責任者などが逮捕されて有罪になった場合、候補者自身はまったく知らなくても、候補者の当選は無効とされます。

事前運動は禁止

選挙運動をおこなえるのは、候補者が立候補の届けを提出してから投票日の前日まで。選挙カーでの運動は時間帯の定めもある



選挙期間前に貼られるポスターは、演説会の告知など「通常の政治活動のお知らせ」のためのものというのが建前だが、本当の狙いは名前と顔売り込むこと

運動員の人数と報酬は上限あり

報酬を支払うことが認められている有償の運動員以外は、無償のボランティアでなければならない。制限額以上の報酬を渡したり、ボランティアにも謝礼を渡したりすると、買収したとみなされる

選挙カーで宣伝するいわゆるウグイス嬢、ポスター貼り、演説会場の設営、選挙事務所での事務作業など、選挙運動の中身はいろいろ

飲食物の提供はダメ

選挙事務所で、食事や酒類をふるまうことは禁止。お茶や菓子程度ならよい

選挙費用は決められた額内で

参議院比例代表選出議員の選挙では5200万円、衆議院小選挙区選出議員の選挙では、選挙区の有権者数×15円+固定額1910万円を合算した額が上限



選挙にかかるお金

供託金*

衆参の選挙区で立候補する場合は300万円、比例代表に出るなら600万円を選挙管理委員会に預ける



選挙活動費	公費負担	事務所看板／ポスター印刷代／ビラ印刷代／選挙カーの賃貸料／ガソリン代／運転手の雇用料 など
	私費負担	事務所借り上げ料／人件費／飲料・茶菓子代／文具代／撮影代／新聞折込料／選挙カー拡声器／個人演説会場代／交通費／通信費／宿泊費／雑費

が実情です。「普通の人」でも政治への情熱があれば政界に進めるようにするには、選ぶ側の意識や行動の変化が必要です。自分たちで代表を担ぎ出し、応援する。思いが届かなかった場合には、元の生活にすぐ戻れる。そうした環境がなければ、誰でも気軽に立候補、というわけにはいきません。

*得票率が低い場合は没収。売名目的や、他の候補者を妨害する目的での立候補を防ぐため。供託金が没収された候補者は公費負担を受けられず、全額私費で支払う